

がん登録担当者研修会 in 島根

ITO Hidemi
伊藤 秀美愛知県がんセンター
JACR 理事（教育研修委員長）

「縁結びのまち」として知られる島根県出雲市で開催された「第33回日本がん登録協議会学術集会」では、「がん登録担当者研修会」が行われ、251名が参加し、研修会後のオンデマンド配信を90名が聴講しました。テーマは「生存率の算出方法、解釈、活用事例～生存率をがん対策やがん医療に活かすために」で、講義に加え、活発な議論と質疑応答が繰り広げられました。

福井敬祐さん（関西大学）は、生存率の基本概念、計算方法、また全国がん登録情報を用いた相対生存率と純生存率の違いなどを分かりやすく解説しました。寺本典弘さん（四国がんセンター）は、愛媛県での先進的な取り組みを例に、院内がん登録情報を活用した生存率の施設別集計の価値や解釈する上での重要点を説明されました。伊佐奈々さん（琉球大学医学部附属病院）は、臨床現場での生存率活用促進の方策や、ステージ分布・標準診療実施率などを議論の材料として準備する必要性を提言されました。

松本吉史さん（大阪医科薬科大学病院）は、生存率算出前に行く、実務スケジュール、予後判明率、対象数、症例区分・ステージ・治療の有無・治療内容などによる解析対象の設定や層別法の確認の重要性を挙げ、医療現場や地域医療圏における活用事例を紹介しました。伊藤ゆりさん（大阪医科薬科大学）は、住民ベースのがん登録情報を活用した地域の生存率のがん対策上の意義、健康格差評価、がんサバイバーシップへの応用について説明しました。加えて、がん検診の有効性評価には生存率でなく死亡率を用いるべきであることが明確に示されました。最後に、私自身も講師として、生存率の種類や解析方法を復習し、がん登録情報を活用して医療の進歩が患者さんの予後に与える影響を評価する研究事例を紹介しました。

本研修会では、生存率の意義を深く学べる良い機会となりました。法に基づく全国がん登録と院内がん登録の整備による高精度なデータを基盤に、今後さらにはがん登録情報の活用が進むことを期待します。

実務でGo!

KAWASAKI Yumi
川崎 由実

聖隷浜松病院



私は全国のがん登録実務者の方とお話ができる「実務でGo」の時間をファシリテーターという役割をいただきながら、いつも満喫しています。今年のグループテーマは「Case Finding・運用」「データ提供手続」「統計解析」「研修会」「集約」「人材育成」「報告書」「会議運営」と8つの豊富な内容があり、私は「研修会」と「報告書」をテーマにした10名前後で構成された交流会に参加しました。第1部の「研修会」ではコロナ禍という前代未聞の時を過ごし、今後の開催方法はどうかという？ 集合開催？ リモート開催？ 集合とリモートのハイブリット開催？ でもリモート開催ってどうするの?! どんな大変さがあるの?? と実務者ならではの悩みなどの「生の声」、そして実際に経験した

方から聴ける開催方法やアドバイス、苦労話を皆で「なるほど～」と語り合う時間がとても貴重でした。何より自分の知識をワンランクアップさせてもらいました。第2部の「報告書」では全国がん登録と院内がん登録の違いや実体験を語り合い、お互いの「やっていること」「やりたいこと」を共有しました。皆が自由に聴きたいことを発言し合って、笑い合い、名刺を交換し合って…この先も「繋がる」ことが出来る第一歩を踏ませてもらった楽しい時間でした。

どんな内容も1人で考えたり悩んだりしても、答えを導くには限界があると思います。そうは言っても違う施設や地域の方に聴くってハードルが高いですよ…。そんな不安を払拭して悩みに答えてくれる仲間が、この「実務でGo」ではたくさんいます。そしてこの繋がりはここで終了ではなく、この先も続けることが出来ます。私はこの大切な機会を大事に、繋がらせていただいた皆さんとこれからも一緒に学び、助け合い、楽しみながら過ごしていきたいと思っています。

最後に「実務でGo」とっても良いですよ。お勧めです！ 次回の愛知では是非一緒に楽しみませんか。